



やはり全国学力テストは中止しかない！

文科省は、9月29日に、全国学力テストの結果を公表しました。委託を受けた業者の集計ミスにより、予定より1か月以上遅れての公表でした。また、同じ日、愛知県教育委員会は愛知県の結果を公表しました。質問に答える形で、全国学力テストの問題点を明らかにしていきたいと思えます。

Q①愛知県の小学校の成績をどう見たらいいですか

県教委は、全国の平均正答率との比較を通して、「国語A・B、算数Aは全国よりやや低く、算数Bは全国と同程度であった」としています。

しかし、これまで、全国で事前対策が広がってきたこともあり、全国の平均正答率(全国平均)は、上昇しています。「全国平均を指せ」と、競争させられることもありませす。テストの点を上げるための事前対策は、学力調査の目的に反し、学びをゆがめることになりませす。文科大臣をはじめ、多くの教育関係者や報道機関からもその問題が指摘されています。

愛知県においては、今後、全国平均より低い数値である教科の改善を強めようと、事前対策を推し進めることはあってはならないことです。大切なことは、目の前の子どもたちの実態に合わせ、豊かな学びを保障していく

Q②「授業改善に役立てるよう」と言われますが…

結果分析は、問題別に、全国平均との比較で行われるのが通例です。全国平均より低い問題が、改善すべき課題とされます。

しかし、事前対策が広がっている現状では、過去と同一の問題の全国平均が高くなります。たとえば、小学校国語Aでの漢字、国語Bでの記述式の問題は、毎年必ず出されていますので、事前対策で練習すればするほど、点数が上がることになりませす。

その結果、事前対策をしていないところでは、全国平均と比較すると、低い数値となるため、同一問題を解けるようにすることが学習課題となる場合が多くなります。

同一問題ができるように効率的に取り組むとなれば、事前対策に行き着きます。「授業改善」と言われる中身は、限りなく事前対策に

近づきます。

事前対策で学びをゆがめるのではなく、楽しく分かる授業、そして「人格の完成」(教育基本法)といった本来の教育の目的を大切にし、子どもが主人公となる教育を進めていくことが求められています。

Q③B問題では、大変難しい問題が出されていますが…

今年度の全国学力テストでは、衝撃的な結果が出ました。算数B5番(1)の全国平均が、たったの7%(100人中、7人のみが正答という率)だったのです(裏面問題例参照)。この問題については、以下のようなB問題の特徴がからみあったため、特別に難しい問題となったと考えられます。

B問題は、問題が数ページにわたって載せられています。問題文が複数あったり、文章と図表を組み合わせたものもあります。複雑な問題文と設問を読み解き、問題文をもう一度読み返して、解答していきます。その際、テストを受ける子ども本人が考えることではなく、架空の小学生「○○さん」が考えたことをまとめたり、説明したりします。国語Bでは、字数など3つの条件に合うよう記述する問題がいくつかあります。算数Bでは、立式についての説明を求められる問題があります。そして、問題を短時間で解かなければなりません。

このように一部の子にしか解くことができない問題が出題されている背景には、政府・文科省の教育政策があると考えられます。政府・文科省は、企業に貢献する一部のエリートを育成する教育を目指していると考えざるを得ませせん。子どもが学習の主体者であり、すべての

子どもに確かな学力をつけさせるのが義務教育の役割です。義務教育を守り、30人学級の全学年実現など、教育条件を整備していくことが求められています。

Q④文科省は事前対策を戒める通知を出しましたが…

文科省は、「4月前後になると、例えば、調査実施前に授業時間を使って集中的に過去の調査問題を練習させ、本来実施すべき学習が十分に実施できない」(2016・4・28通知)などと、事前対策が広がっていることをようやく認めました。しかし、その責任を教育委員会と学校に転嫁してしまっているのが問題です。

事前対策が広がっている根本的な原因は、文科省がすべての都道府県の成績を公表していること、市町村別・学校別の結果公表を可能にしたことにあります。

全国学力テストの実施要領に「序列化や過度の競争が生じないようにする」と記載されているのに関わらず、それに反することを文科省自身が率先して行っているところに根本的な問題があります。

さらに、問題となる事態は、事前対策に留まらず、不正まで明らかとなりました。沖縄では、「受験した一部の生徒の答案用紙を『平均点が下がる』などを理由に除いて文部科学省に送っていた」(関係者によると)、少なくとも8年前から複数の中学校でも同様のことが行われていた(8月24日、中日新聞)といった報道がありました。これは、氷山の一角であると考えられます。

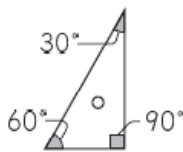
教育に深刻な弊害を与える全国学力テストは、やはり中止する以外に解決策はありません。

これが正答率 7% の問題 算数 B 5 番の (1)

5

右のような、 30° 、 60° 、 90° の角をもつ三角定規があります。

この三角定規を2枚使って、同じ長さの辺をあわせて、次の3種類の図形をつくりました。



① 正三角形



② 二等辺三角形



③ 四角形

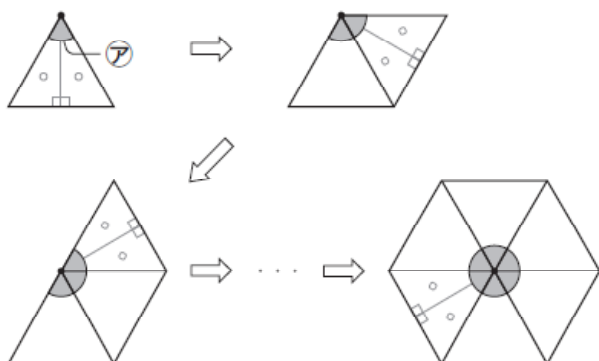


これらの図形の中から1種類を選んで形をつくります。

ア、イ、ウのそれぞれの角が1つの点のまわりに集まるように、選んだ図形を並べていくと、どのような形ができますか。



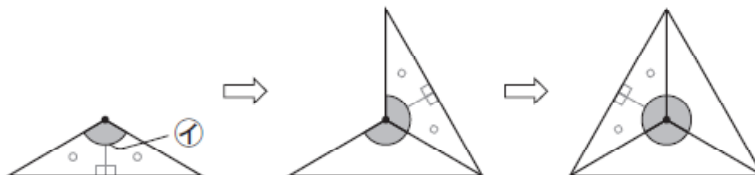
アの角が1つの点のまわりに集まるように、①の正三角形を並べていくと、6つで、正六角形ができました。



(1) 次に、下のように、②の二等辺三角形を選んで形をつくります。



イの角が1つの点のまわりに集まるように、②の二等辺三角形を並べていくと、3つで、正三角形ができました。



どうして3つでぴったりつくることができるのでしょうか。



$360 \div 120 = 3$ で、商が3になり、わり切れるからです。



そうですね。
では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

$360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。
言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

<解答例> 360 は、1回転した角の大きさを表しています。
 120 は、イの角の大きさを表しています。
 $360 \div 120$ は、 360° の角の中に、 120° の角がいくつ入るかを計算している式です。

この問題が、特に難しい理由は、下記のような点が関係していると考えられます。

- ① 二等辺三角形3つを組み合わせると正三角形ができるわけは、言葉で説明すれば十分であり、わざわざ立式する必要はありません。
「二等辺三角形一つで120度、2つで240度、3つ合わせると360度で、ちょうどぴったり合う」など、言葉で十分説明できます。
- ② 立式するにしても、 $120 \times 3 = 360$ の方が二等辺三角形を組み合わせる操作に合った式だと言えます。
- ③ それなのに、「かなえさん」が考えた $360 \div 120 = 3$ という証明する式についての説明を求め、さらに説明のしかたにいくつも条件をつけるなど、一部の子どもにしか解けない難解な問題にしています。